セゾンエアコン　据付説明書・電気配線工事説明書

FDKNP 401～801

PHA012D007

＜お願い事項＞
○取扱説明書を見ながらお客様に実際に操作していただき、正しい運転のしかた（特にエアフィルタの清掃、運転操作のしかた、温度調節の方法）をご説明ください。
○長期間使用しない時は、電源スイッチを切るようお客様にご説明ください。

①据付のまえに

○据付はこの据付説明書に従って正しく行なってください。
○工事計画にあっておりますか。

機種・電源仕様
確認してください
配管・配線・小物部品

付属品

〈付属品〉※本体の上にテープで貼り付けられています。

①

	品名		数量	
	リモコン		1個	

② リモコン据付用

	品名		数量	備考
1	リモコンホルダー		1個	
2	リモコン用電池		2個	UM-4
3	木ネジ		2個	リモコンホルダー用 $\phi 3.5\times16\ell$

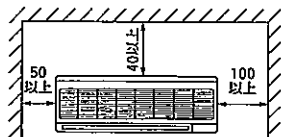
③ 据付関係

	品名		数量	備考
1	据付板		1個	室内ユニット裏面に付属
2	タッピンネジ		8個	据付板用　径4mm×長さ25mm
3	インシュレーション		1個	断熱用　50mm×160mm

工事完了後、これだけは再チェック願います。

チェック項目	不良だと	チェック欄
室内外のユニットの取り付けはしっかりしていますか。	落下・振動・騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレンはスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体に表示の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
電線の太さは仕様どおりですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	

②室内ユニットの据付場所の選定

（室内機）据付スペース

お願い　●点検、メンテナンス作業のためスペースを確保してください。

お願い

据付場所は下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
- ●冷風または温風が十分行きわたる所。
- ●室外への配管、配線のしやすい所。
- ●ドレン排水が完全にできる所。
- ●据付部の壁が強固である所。
- ●吸込口、吹出口に風の障害のない所。ショートサーキットしない所。
- ●火災報知器の誤動作しない所。
- ●油の飛沫や蒸気の多い所は避けてください。
- ●直射日光が当たらない所。
- ●高周波を発生する機械がある所は、避けてください。
- ●周囲の露点温度が28℃以下、相対湿度80％以下の所。

（本ユニットはJIS露付条件にて試験を行い、不具合のないことを確認しておりますが、ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態で運転すると水滴が落下するおそれがあります。）

③室内ユニットの搬入、据付

搬入

お願い

- ●搬入時は、できるだけ据付現場の近くまで梱包のまま搬入してください。
- ●やむをえず解梱して搬入する場合は、ナイロンスリングなどで包みユニットを傷つけないように注意してください。
  注）吹出ルーバ部分を持たないでください。
- ●解梱後ユニットを置く場合は、必ずユニットの前面側を上にしておいてください。

据付板の取付け

お願い

- ●室内ユニットは重量が約12kg（ハイパーインバータシリーズ63~80、標準シリーズ80：13.5kg）あります。したがって据付けようとする場所がそのユニットの重量に耐えられるか検討し、危険と思われましたら板あるいは桁等で補強して据付作業を行ってください。また、このユニットを直接壁面等に据付けることはできません。いずれの場所に据付ける場合にも必ず付属の据付板を使って据付けてください。

○壁内の構造物（間柱など）をさがして水平を確認してから強固に取付けてください。

ハイパーインバータシリーズ40~56、
標準シリーズ40~63　の場合

ハイパーインバータシリーズ63~80、
標準シリーズ80　の場合

ハイパーインバータシリーズ	40~56	63~80
標準シリーズ	40~63	80
B 寸 法	450	690

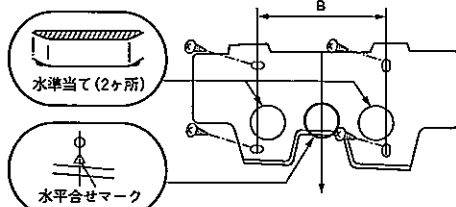
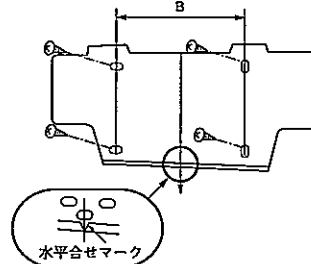
○据付板の水平調節は４本のねじを仮締めした状態で行います。

○基準穴を中心に回転し水平になるよう調節します。

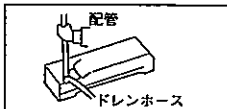
⚠警告

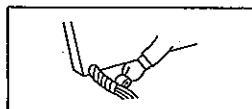
・据え付けは、重量に十分に耐える所に確実に行ってください。強度不足や取り付けが不完全な場合にはユニット落下によりケガの原因になります。

壁の穴孔け要領

○室内から室外にむかって下り勾配（5°）をつけてください。

配管・ドレンホースの整形

（後取り出しの場合）

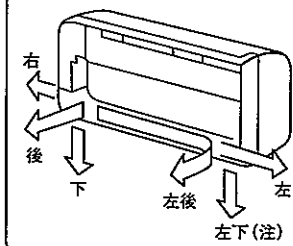
○配管の整形

●配管の根元を押さえ向きを変えてから延ばし整形する。

○テープ巻き

- ●壁穴を通す長さ分だけテープ巻きしてください。
- ●渡り配線は必ず配管とテーピングしてください。

配管の整形後テープ巻きを行う前に接続電線が端子台にしっかり固定されていることを確認してください。

（左取り出し・後取り出し時の注意事項）
〈上から見たところ〉

左引き配管時	右引き配管時

配管は、後、左、左後、右、下から取り出せます。

注：左下から配管が取り出せるのは、ハイパーインバータシリーズ40~56、標準シリーズ40~63のみです。

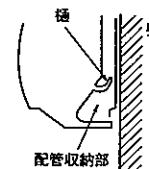
〈ドレンホース付替え作業手順〉

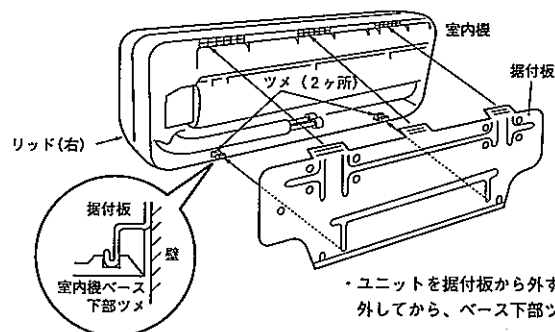
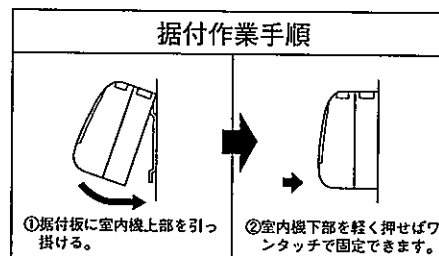
1.ドレンホースを外します。	2.ドレンキャップと断熱材を外します。	3.ドレンキャップと断熱材を差し込みます。	4.ドレンホースを接続します。

●ドレンホースを回転させながら外してください。
（ハイパーインバータシリーズ63～80、標準シリーズ80の場合は、バネ式クランプをゆるめて外してください。）

●手または、ペンチ等で外してください。

●2.で外したドレンキャップを六角レンチ等をもちいて確実に差し込んでください。
注：確実に差し込まれていないと水漏れの原因になりますのでご注意ください。

●ドレンホースを回転させながら確実に差し込んでください。
（ハイパーインバータシリーズ63～80、標準シリーズ80の場合は、バネ式クランプをゆるめてドレンホースを確実に差し込んでください。）
注：確実に差し込まれていないと水漏れの原因になりますのでご注意ください。

このエアコンは背面についた露をドレンパンに集めて排水する構造になっていますので、樋より上方に電源コード等を収納しないでください。

ユニットの据付

・ユニットを据付板から外す場合は、左右のリッドを外してから、ベース下部ツメを外してください。

④冷媒配管

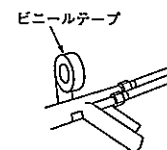
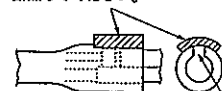
フレアナット締付トルク

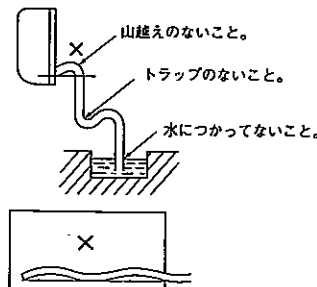
ϕ 6.35： 14～ 18(N・m)，(1.4～1.8kg・m)　ϕ12.7 ： 49～ 61(N・m)，(4.9～6.1kg・m)
ϕ 9.52： 34～ 42(N・m)，(3.4～4.2kg・m)　ϕ15.88： 68～ 82(N・m)，(6.8～8.2kg・m)

ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。

※液側配管は断熱しないと結露し水漏れします。

●ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで２丁掛けして外してください。
（このときガスが出ることがありますが、異常ではありません。）
●フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで３～４回転ねじ込み、２丁スパナ掛けでしっかりと締め付けてください。
●配管は下記材質のものをご使用ください。なお別売配管セットを使用されると便利です。
（材質）リン脱酸銅継目無銅管（C1220T、JIS H3300）
●室内機のフレア接続部は、ガス漏れチェック後、室内ユニットの断熱材で覆い、付属のインシュレーションで切込み部を断熱してからテーピングしてください。
●配管は、ねじったり・つぶしたりしないでください。
●配管内はゴミ・切粉・水分が混入しないように施工してください。

FDKN

⑤ドレン配管

お願い
- ●ドレン配管は、ドレンホース先端に硬質塩ビパイプ一般管VP−16が接続可能です。
- ●ドレン配管はドレン水が流れやすいように下り勾配にし、配管途中にトラップをつくったり山越え配管をしないようにしてください。
  （左、右、後、下方向に取出し可能）
  室内に施工の硬質塩ビパイプ（VP−16）は保温してください。
- ●ドレン配管の出口は異臭の発生する恐れのない場所に施工してください。
- ●ドレン配管はイオウ系有害ガス及び可燃性ガスの発生する下水溝に直接入れないでください。室内に有害ガス及び可燃性ガスが侵入する恐れがあります。
- ●熱交換器の下のドレンパンに水を注ぎ室外へ排水されることを確認してください。
  （前面パネルの取付け取外しについては裏面「電気配管工事」の「配線の取り付け」を参照ください。）

⚠注意　確実に工事し、排水の確認をしてください。水漏れの原因になる恐れがあります。

電気配線工事

電気配線工事は電気設備技術基準及び内線規程に従い、電力会社の認定工事店で行ってください。

Ⓐ 電源・室内外接続線

お願い

室内外接続線は３心ケーブルを使用してください。

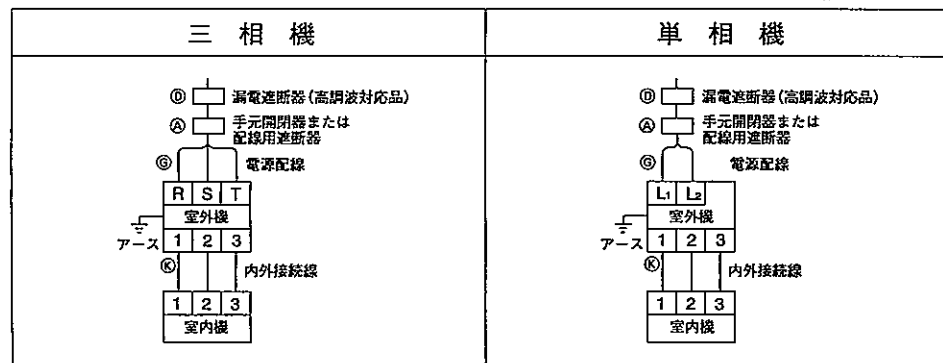
⚠ 警告

- ●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。
- ●電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及びこの据付工事説明書に従って施工し、必ず専用回路とし、かつ定格の電圧、ブレーカーを使用する。電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災等の原因になります。

⚠ 注意

- ●アース工事を行う。アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース線が不完全な場合は感電の原因になります。
- ●電源には必ず漏電遮断器（高調波対応品）を取付ける。
  漏電遮断器が取付けられていないと感電の原因になります。
- ●正しい容量のブレーカー（漏電遮断器・手元開閉器（開閉器＋B種ヒューズ）・配線用遮断器）を使用する。大きな容量のブレーカーを使用すると、故障や火災等の原因になります。

シングル機の結線

①本機はヒータレス専用（含む冷専）です。ヒータは取り付けられませんのでご注意ください。
②本機はプルーラル接続等の複数台接続はできません。
③室内外接続線は極性がありますので、必ず同一端子台番号間を接続してください。
④室内電源取り及び室内外別電源取りは原則できません。

開閉器・配線仕様

注 (1)配線こう長は、電圧降下2%とした場合を示します。表示の配線こう長を越える場合は、内線規程により配線太さを見直してください。
Ⓚの記載なき欄の配線こう長は50mです。
(2)室内外接続線Ⓚは総長70mまでとしてください。
(3)衝撃波不動作形のブレーカーを使用してください。

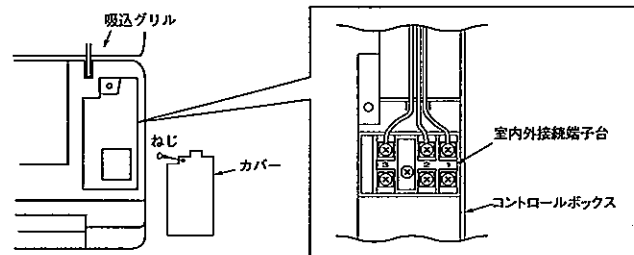
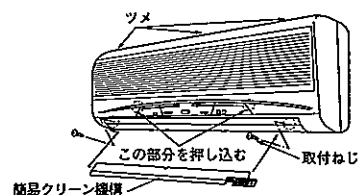
標準機・ヒータレス（含む冷専）	室外機		漏電遮断器 定格電流	手元開閉器 開閉器容量	手元開閉器 B種ヒューズ	配線用遮断器 定格電流	電源配線 注(1) 太さ×本数	電源配線 注(1) こう長	内外接続線 注(1) 太さ×本数	アース線 太さ	アース線 ネジ
			Ⓓ	Ⓐ			Ⓖ		Ⓚ 注(2)	太さ	ネジ
	単相	P40～P56	20A,30mA,0.1sec以下	30A	20A	20A	φ2.0×2	23m	φ1.6×3	φ1.6	M5
		P63	20A,30mA,0.1sec以下	30A	20A	20A	φ2.0×2	20m	φ1.6×3	φ1.6	M5
	三相	P40～P63	15A,30mA,0.1sec以下	30A	20A	20A	φ1.6×3	29m	φ1.6×3	φ1.6	M5
		P80	20A,30mA,0.1sec以下	30A	20A	20A	φ2.0×3	33m	φ1.6×3	φ1.6	M5

ハイパーインバータ・ヒータレス	室外機		漏電遮断器 定格電流	手元開閉器 開閉器容量	手元開閉器 B種ヒューズ	配線用遮断器 定格電流	電源配線 注(1) 太さ×本数	電源配線 注(1) こう長	内外接続線 注(1) 太さ×本数	アース線 太さ	アース線 ネジ
			Ⓓ	Ⓐ			Ⓖ		Ⓚ 注(2)	太さ	ネジ
	単相	P40～P56	20A,30mA,0.1sec以下	30A	20A	20A	φ2.0×2	23m	φ1.6×3	φ1.6	M5
		P63～P80	30A,30mA,0.1sec以下	30A	30A	30A	5.5mm²×2	24m	φ1.6×3	φ1.6	M5
	三相	P40～P56	15A,30mA,0.1sec以下	15A	15A	15A	φ1.6×3	29m	φ1.6×3	φ1.6	M5
		P63～P80	20A,30mA,0.1sec以下	30A	20A	20A	φ2.0×3	33m	φ1.6×3	φ1.6	M5

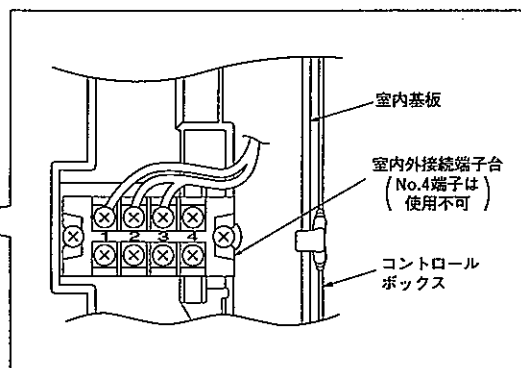
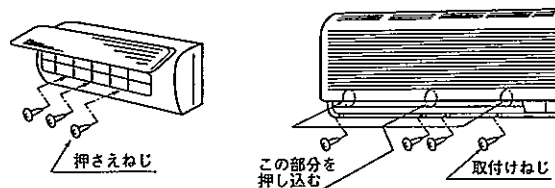
配線の取り付け

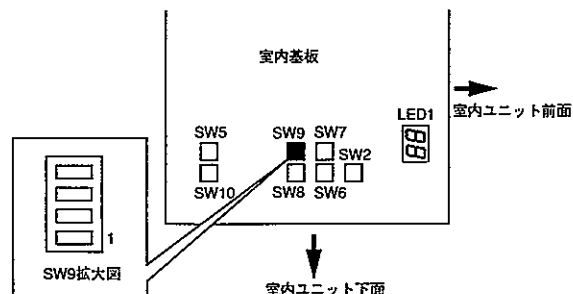
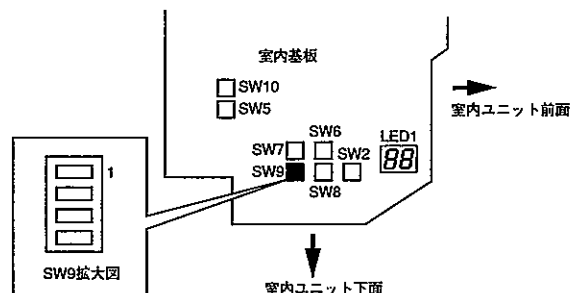
(1)ハイパーインバータシリーズ40～56、標準シリーズ40～63の場合
①吸込グリルを開けます。(吸込グリル下部両端を引き、ラッチを外してから手応えのある所まで引き上げてください。吸込グリルは60°位開いた所で止まります。)
②カバーのねじを外して、カバーを外してください。
③コントロールボックスの端子台に、室内外接続線を取り付けます。（室内外接続線は配線クランプにて固定してください。）

④カバーを取り付け、ねじを締めます。
⑤吸込グリルを閉めます。
（注意）
・配線を端子台に取り付けるときは、端子番号を確認してから取り付けてください。

●パネルの取り外し順序
①簡易クリーン機構を取り外します。
②取り付けねじを外してください。（２ヶ所）
③前面パネル下部を手前に浮かし、上部を押し上げる様にして外してください。
（上部３ヶ所のツメを外します。）

●パネルの取り付け順序
①エアフィルタは必ず取り外してください。
②前面パネルを本体に被せます。
③図の◌部を正面から押します。
④取り付けねじを締めます。
⑤エアフィルタをセットしてください。
⑥簡易クリーン機構を取り付けてください。

(2) ハイパーインバータシリーズ63〜80、標準シリーズ80の場合
①前面パネルを取り外します。
②コントロールボックスの端子台に、室内外接続線を取り付けます。（室内外接続線は、配線クランプにて固定してください。）
③前面パネルを取り付けます。
（注意）
・前面パネルの取り付け、取り外しは、下図を参照ください。
・配線を端子台に取り付けるときは、端子番号を確認してから取り付けてください。

●パネル取り外し順序
①吸込グリルを開けます。（吸込グリル下部両端を引き、ラッチを外してから手応えのある所まで引き上げてください。吸込グリルは60°位開いた所で止まります。）
②エアフィルタを取り外してください。
③押さえねじを外してください。（３ヶ所）
④吸込グリルを閉めます。（吸込グリル下部両端を持ち、下方向にゆっくり下げラッチが掛かる程度に軽く押し、更に中央部を軽く押してください。）
⑤前面パネルの取り付けねじを外してください。（４ヶ所）
⑥前面パネル下部を手前に浮かし、上部を押しを上げる様にして外してください。

●パネル取り付け順序
①前面パネルを本体に被せます。
②図の◌部を正面から押します。
③前面パネルの取り付けねじを締めます。
④吸込グリルを開けて押さえねじを締めます。
⑤エアフィルタをセットしてください。
⑥吸込グリルを閉めてください。

●混信防止用切換スイッチ位置（室内基板をコントロールボックスから取り出して設定を変更してください。）
（注意）
・室内基板をコントロールボックスから取り出すためには、前面パネルを取り外す必要があります。
・前面パネルの取り付け、取り外しには、左下図を参照してください。

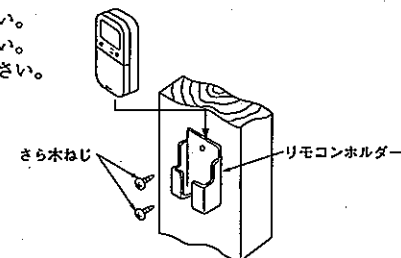
(1) ハイパーインバータシリーズ：40～56
標準シリーズ：40～63の場合

(2) ハイパーインバータシリーズ：63～80
標準シリーズ：80の場合

Ⓑ リモコン

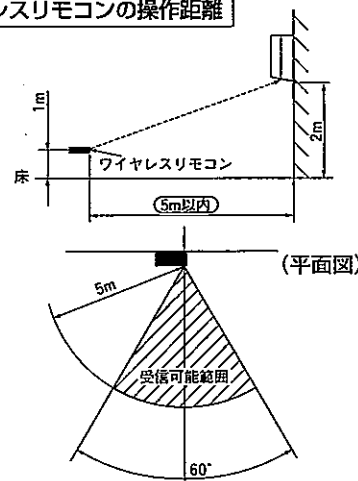
ワイヤレスリモコン（リモコンホルダー）の据付

お願い　次の位置は避けてください

1）直射日光の当たる場所
2）発熱器具の近く
3）湿気の多い所・水の掛る所
4）取付面に凸凹がある所

ホルダー取り付け時の注意

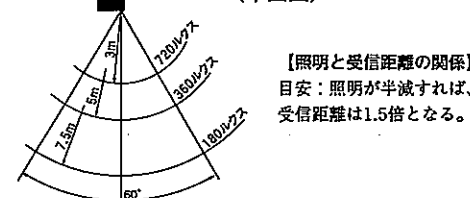
・垂直になる様、調整してください。
・ねじ頭が出ない様にしてください。
・土壁等へは取り付けないでください。

ワイヤレスリモコンの操作距離

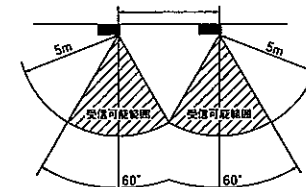
ワイヤレスリモコンの操作距離

【条件】　吸込グリル面照度　800ルクス

目安：一般事務所でパッケージ周辺１m以内の天井面照明がない設置例（この場合、机上照度役1000ルクス）

ポイント：（上記条件）
1.受信角度　60°
2.受信距離　5m

○リモコンスイッチを正しくエアコンの受信部に向けて操作してください。
○操作距離は上図の通りですが条件により異なり（増減）ます。
○受信部に直射日光・照明等の強い光が当たっている場合は、操作距離が短くなったり、受信しなくなる場合があります。

受信部照度と受信距離の関係

【照明と受信距離の関係】
目安：照明が半減すれば、受信距離は1.5倍となる。

複数台近接設置の注意

【条件】　吸込グリル面照度　800ルクス

目安：一般事務所でパッケージ周辺１m以内の天井面照明がない設置例（この場合、机上照度役1000ルクス）

ポイント：（左記条件）
1.受信角度　60°
2.受信距離　5m

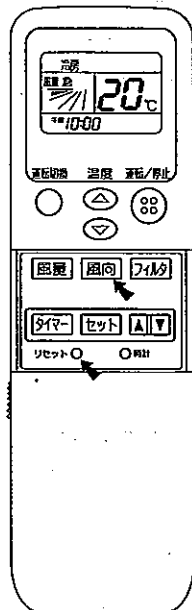
【複数台近接設置】
右記条件にて同一リモコン使用時の同一動作を防止できる最小距離は5mです。
（受信部照度、部屋壁面の反射状態により変化する。）

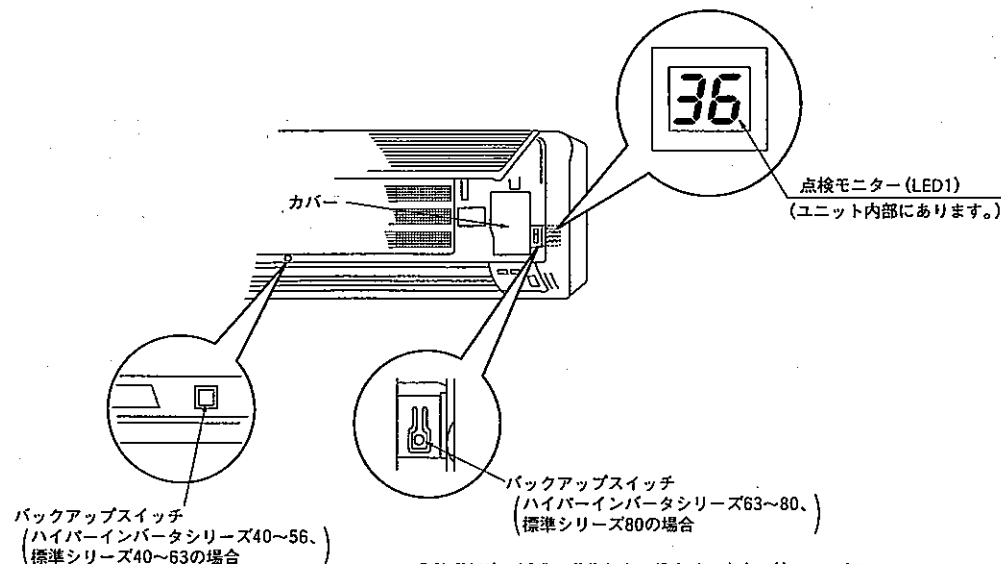
➡ 混信による誤動作を防ぐ方法（送受信モード変更）
(1) リモコン設定変更
(2) 室内コントロールプリント基板変更

混信による誤動作を防ぐ方法 (1) (2)両方を実施

(1) ワイヤレスリモコンの設定変更
　風向 ボタンを押しながらリセットボタンを押すか電池投入をすると設定が混信防止設定へ切り換わります。
　（※一度電池を取り外すと初期設定（工場出荷時設定）へ戻ります、電池を取り外した時は、再度、上記操作を行ってください。）

(2) 室内基板変更
　室内基板上のSW9-1を、ONにしてください。
　スイッチの位置は 配線の取り付け の混信防止用切換スイッチ位置を参照してください。

上記操作方法を必ずお客様に説明してください。
（操作方法は取扱説明書にも記載してあります。）

Ⓒ 冷房試運転操作

① 吸込グリルを開けます。
② ユニットの右側または中央右側付近に下図に示す様な、バックアップスイッチ及び、点検モニターがあります。
（但し、点検モニターは、ユニット内部にあるため、カバーを開けてください。
ハイパーインバータシリーズ40~56、標準シリーズ40~63の場合は、コントロールボックスの小窓から右方奥に確認できます。
ハイパーインバータシリーズ63~80、標準シリーズ80の場合は、バックアップスイッチの裏側にあります。）
③ バックアップスイッチを押しながら、ワイヤレスリモコンにて冷房運転を送信してください。冷房試運転を開始します。
④ 停止させるには、もう一度バックアップスイッチを押すか、ワイヤレスリモコンにて、停止ボタンを押してください。

●試運転時、正常に動作しない場合は、室内・外ユニットに貼付けの点検表示を参照し、点検してください。